

あいち農産物生産流通レポート

平成18年10月号

情報サロン		
・ LAMP法の農業への利用	(農業総合試験場)	1
地域トピックス		
・ 新しい野生キノコの栽培技術の開発		
- キサケツバタケの栽培条件について -	(森林・林業技術センター)	2
東日本情報		
・ なすの品種について	(東京事務所)	3
西日本情報		
・ 週末の八百屋さんがオープンしました		5
	(食育推進課)	
フラワーページ		
・ 花と空間の関係	(株式会社名花園 井上幸信)	7
青 果		
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)		8
・ 名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し		9
花 き		
・ 切花・鉢花の10月の見通し(県内市場)		21
輸出入		
・ 主要農産物の輸出入実績(2006年7月)		25
関連指数		26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

LAMP法の農業への利用

従来、病害虫の診断は、これまでに蓄積されてきた情報や知識を基に行われてきました。しかし、新しい病害虫については、判定に時間がかかることがあります。早期発見で被害の拡大を抑止するためにも、正確で迅速な診断方法が必要とされています。今回は、病害虫を短時間で的確に特定できる方法の確立に向けた農業総合試験場（以下「農総試」という。）の取り組みを紹介します。

1．病害虫の遺伝子診断

すべての生物は、それぞれの種に特有の遺伝子を持っています。農作物に被害をもたらす病原菌や害虫も例外ではありません。それらの遺伝子を調べることによって、正確に病害虫の診断を行うことができます。特に、近年開発された LAMP 法という DNA 解析技術を使うと、簡易な機器で短時間に病害虫を特定することができます。農総試では、世界に先駆け、LAMP 法を農業に応用する研究を行っています。

2．トマト黄化葉巻病診断キットの商品化

トマト黄化葉巻病は 90 年代半ばに海外から侵入したウイルス病です。トマト黄化葉巻病による被害を軽減するためには、早期診断による早めの対策が必要になります。そのため、農総試では LAMP 法を利用した簡易な診断技術を、栄研化学株式会社と共同で開発しました。この成果は、2005 年 6 月に「トマト黄化葉巻病診断キット」として商品化され、国内の多くのトマト産地で利用されています。

3．LAMP法の農業への活用

農総試では、トマト黄化葉巻病以外にも、キュウリモザイクウイルス、トマト黄化えそウイルス、インパチエンスえそ斑紋ウイルスなど県内で問題となっている 16 種類のウイルス病に対し、LAMP 法を利用した診断技術を開発しました。また、イチジク株枯病やカーネーション萎凋細菌病のような難防除土壌病害については、植物

だけでなく土壌からの病原体の検出について研究を進めています。将来的には、作物を植え付ける前の土壌を調べることによって、土壌病害を予防することができるようにしたいと考えています。

一方、害虫の中には、種によって農薬に対する抵抗力の違うものがあり、効果的な防除のため、ほ場で発生している種を特定する必要があります。農総試では、アザミウマとタバココナジラミ Q タイプに注目し、LAMP 法を利用した種の識別法を開発しました。アザミウマについては県内で問題となっている 4 種のアザミウマ（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズバナアザミウマ、ネギアザミウマ）についてそれぞれの種を簡易に識別できるようになりました。また、トマト黄化葉巻病を媒介し農薬に耐性を持つことで今後大きな問題になると考えられるタバココナジラミ Q タイプについても、従来の B タイプと確実に区別できる手法を確立しました。



「トマト黄化葉巻病診断キット」

農総試では、農業の現場と情報交換を行いながら、診断できる病害のメニューを増やすとともに、このような技術がより広く利用されるよう普及を進めていきたいと考えています。

新しい野生キノコの栽培技術の開発 キサケツバタケの栽培条件について

近年、きのこ栽培の主流は原木栽培から菌床栽培に移行している中、小規模な生産者の経営は厳しい状況が続いている。そこで、森林・林業技術センターでは、県内生産者の経営が有利になるよう、まだ栽培化のされていない野生きのこの収集と栽培技術の開発に取り組んだ。

野生きのこの収集

県内を中心に、野外において採集した新鮮な野生きのこの組織を寒天培地上に分離し、保存したところ、36種63系統の菌株が収集できた。一般にきのこは、木材や落ち葉を腐らせる腐朽菌・腐生菌のグループと、植物と共生する菌根菌のグループに分けられる。現在、食用として栽培されているきのこの大半がである。そこで、今回収集したのグループの中から、市場性があり、栽培可能なきのことしてキサケツバタケを選び、菌床栽培化に向けて試験を実施した。キサケツバタケは、ナメコやクリタケと同じモエギタケ科のきのこで、優れた食用きのことして図鑑にも紹介されている。春や秋に道端、田畑、河川敷の草むらに1本ずつ生える。

菌糸の成長条件の調査

キサケツバタケの菌糸の伸びる適温は28前後と、比較的高い温度で生育することがわかった。また、シイタケ、マイタケ等で用いられているコナラオガ粉の培地でも菌糸は伸びることを確認した。また、コナラオガ粉に一定割合のフスマを添加し、含水率を65%に調整した1kgのポリプロピレン製の袋を用いた培地においては、菌糸がまん延するまでに110~120日かかることがわかった。続いて、きのこが発生しやすいよう、菌糸のまん延した培地の上面から古い菌糸をかき落とした後、通常きのこの発生する温度15~17、湿度約90%で栽培したが、きのこは発生しなかった。

栽培に適した培地の検索と培養条件の検討

上記の培地3個を市販のプランターに詰め、その周囲と上部にバーク堆肥を入れた培地で再培養したところ、培地の表面に菌糸が発生したので、再度発生室に移したところ、培地をバーク堆肥に埋め込んでから53日後に最初のきのこが収穫できた(写真)。また、コナラオガ粉とフスマにさらにバーク堆肥を混合した培地では、菌糸がまん延するまでの日数を90日に短縮することができた。



プランターから発生したキサケツバタケ

きのこの収穫量は、プランターに3個培地を用いた場合は培地重量の約3割であった。培地の個数を2個に減らした場合は、収穫量は同じく1割程度にしかならなかったことから、培地の個数は3個が適当と思われる。

今後は、培養日数やプランターに埋設後から発生までの日数を短縮させる手法を究明し、実用化に結びつけていく。

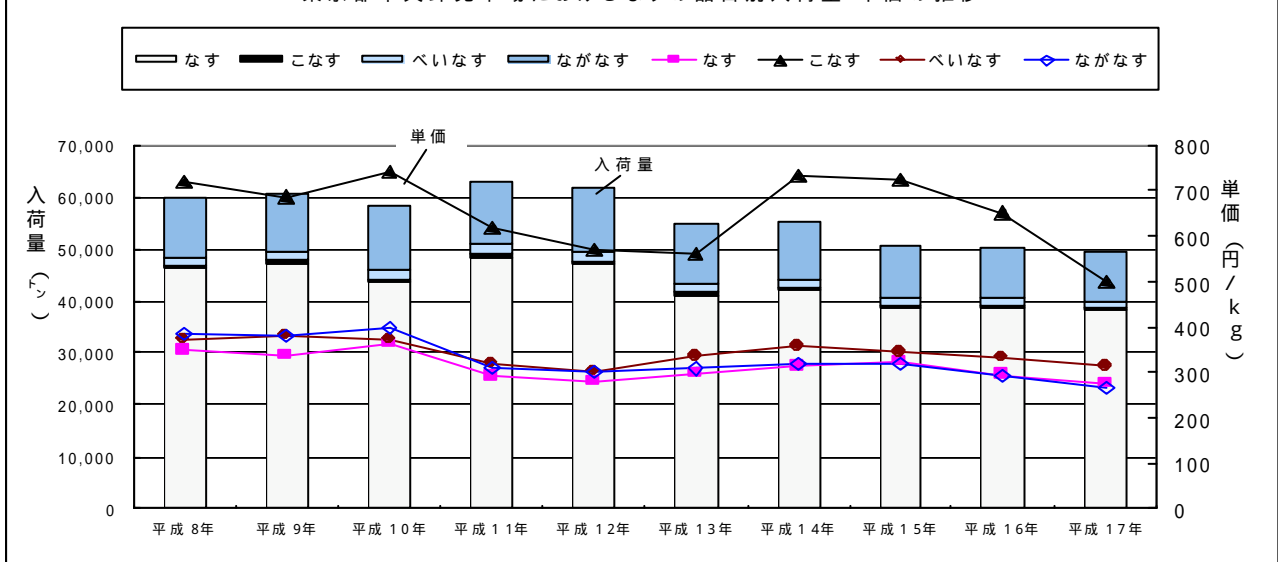
なすの品種について

愛知県東京事務所物産情報グループの事務所が、東京都大田区の東京都中央卸売市場大田市場内にあることから、先日も東京にお住まいの方から、「愛知の^{きった}橋田なすは東京で販売していますか。」と電話での問い合わせをいただきました。愛知産のなす自体の京浜市場への入荷量は少なく、平成17年の東京都中央卸売市場のなすの入荷量49,732トン（なす、こなす、べいなす、ながなすの合計数量）のうち、愛知産は18トン（なす7トン、べいなす11トン）、シェアは1パーセント未満となっています。市場で愛知産の「^{きった}橋田なす」は見たことがありません。

東京都中央卸売市場におけるなすの種類別・産地別入荷量とシェア（平成17年）

なす			こなす			べいなす			ながなす		
産地	数量(トン)	シェア	産地	数量(トン)	シェア	産地	数量(トン)	シェア	産地	数量(トン)	シェア
高知	14,713	38.5%	高知	126	39.7%	高知	870	57.4%	福岡	6,191	63.9%
栃木	6,867	18.0%	山形	112	35.3%	奈良	180	11.9%	熊本	1,378	14.2%
群馬	5,187	13.6%	埼玉	33	10.4%	秋田	139	9.2%	茨城	880	9.1%
埼玉	2,952	7.7%	栃木	15	4.7%	大阪	103	6.8%	群馬	870	9.0%
茨城	2,821	7.4%	奈良	11	3.5%	千葉	88	5.8%	栃木	94	1.0%
愛知	7	0.0%	愛知	0	0.0%	愛知	11	0.7%	愛知	0	0.0%
合計	38,202		合計	317		合計	1,517		合計	9,696	

東京都中央卸売市場におけるなすの品目別入荷量・単価の推移



文献によると、「橋田なす」は中長種の在来品種で、明治から戦前まで愛知県の主要品種として多く栽培されていました。しかし、戦後になって雑種強勢の技術により育成した優秀な一代雑種が、収穫量が多い、栽培が容易など栽培上の利点を発揮することが多かつ

たことから、橘田なすは新品種に置き換えられて現在は市場で流通していないようです。問い合わせをいただいた方にそのことを伝えると大変残念がっていました。

愛知県では現在、中長種の「千両^{せんりょう}なす」が多く作られています。

なすについてみると、日本の野菜の中で長い歴史を有する作物で、全国各地域で様々な品種が栽培されてきました。果形もバラエティ豊かで、球形種、卵形種、中長種、長種、大長種などに大別されます。古くからの在来品種としては、九州と東北地方では長なすが多く、関東ではやや小形の卵形種、東海地方や関西には中長種、長野、新潟から東北南部には丸なすや巾着なすが多く栽培されていました。

各地域で栽培されていた品種は、東北地方では山形県特産のからし漬けなどに使われる小形の丸なす「民田^{みんでん}」や岩手の「南部長^{なんぶなが}」、秋田の「河辺長^{かわべなが}」、関東地方では卵形の「真黒^{しんくろ}」、東海地方では中長種の「橘田^{たちだ}」、近畿では中長種の「大市^{おおいち}」や「大阪中長^{おおさかちゅうなが}」や京都の丸なすの「賀茂^{かも}」、九州では大長種の「博多長^{はかたなが}」、「久留米長^{くろめなが}」などでした。

現在、市場に流通しているなすの多くは一代雑種のものになっており、古くからの在来品種を見ることは少なくなっていますが、各産地から様々ななすが出荷されています。

9月中旬に大田市場、築地市場で見られた各産地のなすを紹介します。



愛知産 (JA豊橋) べいなす



高知産 こなす



京都産 加茂なす



愛媛産 ながなす

《参考文献》

「野菜考 ベジタブル・マイフレンド」 石黒嘉門 著

週末の八百屋さんがオープンしました

愛知県は平成18年度、農商連携地域活性化対策事業（「週末の八百屋さん」）を実施しています。この事業は、商店街にある空き店舗等を活用し、地元農林水産物を販売・PRすることを通じて地産地消の推進と商店街の活性化を目的としており、今回は、この事業の概要とオープン当日の様子を御紹介します。

事業のしくみ

店舗の設置と運営の企画を、生産者や学生のグループ、農林水産業の体験やまちづくりに関する活動を行っているNPO等から公募し、優れた提案をした団体に事業を委託して実施しています。6月12日の公募締切までに9団体から応募があり、書類審査、プレゼンテーション審査を経て、最終的に次の3団体を実施団体として決定しました。

実施団体の概要

グループ名	気まま自由クラブ	サマーカレッジ チャレンジショップ 実行委員会	まちづくりAnjo
構成員等	社台社口商店街等有志	豊橋市内の大学の 大学生等	まちづくり団体 (安城市、農業団体、商店街・商工関係団体、 学校法人等)
実施商店街	名東区社台社口商店街 (名古屋市)	豊橋広小路三丁目商店街 (豊橋市)	安城市御幸商店街、 安城セントラル商店街 (安城市)
期間	18年7月29日から 19年2月10日	18年7月29日から 18年8月20日	18年9月9日から 19年2月10日
事業内容	住宅地に立地する商店街で地産地消の取り組み。 週1回の店舗販売のほか、商店街イベントにも出店し、地域住民の交流や商店街の活性化を目指す。	学生の若い力とアイデアで、全国に誇る豊橋産の農産物をPRし、商店街の活気と地元農産物の素晴らしさを豊橋市中心市街地から発信する。	生産者自らが農産物を会場に搬入し、対面販売を通して生産者と消費者の交流を図る。また広場で農産物を積んだ軽トラックを一堂に集め、産直会場での軽トラ市、地元産農産物を使った伝統料理の紹介等の企画を商店街と連携して実施。

「まちづくりAnjo」による週末の八百屋さんがオープン

まちづくりAnjoによる「まちなか産直市」は、9月9日（土）安城市御幸商店街にオープンしました。開店前の店内には、市内の生産者が持ち寄った小松菜、ねぎ、ゴーヤ、冬瓜、じゃがいも、なし、いちじく等が所狭しと並べられ、農産物の販売を担当する農村生活アドバイザーのメンバーが慌ただしく開店の準備に追われていました。

一方、開店時間の9時前には、小さな子供連れの方や手押し車を引いた高齢者の方など、開店を心待ちにした多くの市民が店舗前に集まりました。見知らぬ人同士が会話を交わしながら開店を待つ姿も見られました。その後、安城市長のあいさつ等のセレモニーが行われ、賑やかな雰囲気の中で開店しました。

開店直後から店内は大盛況で、ねぎやいちじくは30分程度で売り切れとなりましたが、先着50名には鉢花のプレゼントが渡されたほか、店の奥のスペースでは抹茶と和菓子がサービスされるなど、産直以外の楽しみもあり、多くの人を訪れました。また、農産物を守る農村生活アドバイザーから料理方法や保存の仕方などのアドバイスを受けるお客さんの姿も見られました。

まちづくりAnjoの取り組みは来年2月まで行われ、11月には農産物を積んだ軽トラックを交流広場に一堂に集めて大々的に直売する軽トラ市も計画されており、その成果が期待されます。



開店前の行列



会話を交わしながらの買い物姿

その他の実施団体の様子

豊橋市では市内で学ぶ大学生主体のサマーカレッジチャレンジショップ実行委員会が、7月29日から8月20日までの3週間、八百屋を運営しました。仕入れや販売などの経験も十分ではない中、少しでも多くの人に地元農産物の素晴らしさをアピールするとともに、地域の活性化を目指し、奮闘しました。

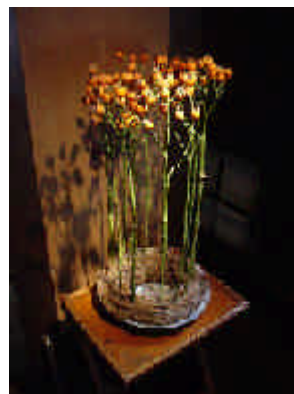
名古屋市では気まま自由クラブが、7月29日に名東区の社台社口商店街「気まま自由広場」に開店しました。地元の名古屋市内の農家から仕入れたきゅうりやすいかの販売され、近所の人が多く訪れました。毎週土曜日に開店し、来年2月まで行われます。

地産地消と商店街の活性化に向けて

「週末の八百屋さん」事業は、地域住民が改めて地産地消の良さを実感する機会となりました。今後もこうした地産地消の取り組みを通じて、地域の人々の交流の輪が広がり、商店街が活性化する発端となることを期待します。

= 花と空間の関係 =

「フラワーデザイン」 デザインと名の付くとおり、そこには少なからず、流行が存在します。華奢でやさしい雰囲気の花や、野草のような花達を組み合わせるナチュラルな取り合わせが流行ったり、百合やバラやランなど高価な花を、ふんだんに使い、豪華な組み合わせで、ゴージャスなものが、人気の時代もありました。また、80年代のバブル期以降は枝物と花を組み合わせた大きめのディスプレイなども、ブティックなどを中心にして、人気が高かった時代もありました。



百合やランなどの豪華な取り合わせが流行った時代には、やはり煌びやかな装飾を施した家具や照明などが人気で、自然で優しい花が人気の時代には、エコロジーや地球環境などが叫ばれ始め、ガーデニングブームなど、よりナチュラルテイストがキーワードの時代でした。現在の流行は、さしずめシンプルでモダンなもの、といったところでしょうか。

インテリアショップも林立し、照明、椅子、ソファなどシンプルでモダンなものが人気です。その空間に飾られる花達は、大きめのグリーンと単一種類の花、あるいはグリーンのみなど、やはりシンプルでモダンで現在のインテリアの流行と密接な関係を持っています。

花とそれが飾られる空間とは、いつの時代も密接な関係を持っています。



執筆者の紹介

今回執筆を依頼した井上幸信氏は、フラワーデザイナーとして活躍されています。アジアのフラワーデザイナー代表がトップを競う「アジアカップ・2006」(18年6月中国広州市にて開催)に日本代表の1人として出場し、2位となりました。

このページで掲載した写真は井上氏の作品です。

愛知産青果物の動向

名古屋中央卸売市場(品目:次郎柿)

	入荷量 (t)		卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
17年実績	386	205 (53%)	211	247	三重 (46%)
18年見通し	300	-	250	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>春先の低温により、開花が1週間程度遅れた。また、梅雨が長かったため、生理落果が多かったが、その後の好天、適雨で生育は回復傾向にある。入荷は10月中旬頃から始まる。今年はカメムシの発生が多く下級品が増える可能性がある。</p> <p>10月の入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>			<p>次郎柿はりんご等と同様、皮をむく手間があるため、若い消費者が敬遠しがちである。しかし、シャリ感のある歯ざわりが好まれ、品質の良い愛知の次郎柿は定評がある。昨年は5角形をした「合格次郎」がネットで販売され、マスコミにも取り上げられて大人気となった。</p> <p>今後も、積極的にマスコミ等を利用した販促活動を行い、消費が伸びるようお願いしたい。</p>		

東京都中央卸売市場(品目:次郎柿)

	入荷量 (t)		卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
17年実績	2,620	1,679 (64%)	181	187	静岡 (34%)
18年見通し	2,100	-	210	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>次郎柿は本県産が入荷の大半を占める。あとは、静岡からの入荷となる。面積は前年並。生育はやや遅れているものの、着果量は平年並みである。カメムシの被害も懸念されるが、平年並みの入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は、豊作のため入荷が多かった前年を下回り、価格は前年を上回ると見込まれる。</p>			<p>静岡と比べると着色が劣るので、特に最上級の階級「秀」は着色に気をつけて欲しい。</p> <p>また、例年ハウスと露地の出荷が重なるが、重ならないような出荷体制をとって欲しい。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成17年 = 100				
		愛知県 平成17年 = 100				
全 国	18年 3月	98.0	104.4	96.2	96.3	97.2
	4月	98.3	109.0	91.3	106.8	99.0
	5月	98.8	110.6	109.8	107.0	98.4
	6月	98.7	110.0	111.1	106.6	96.9
	7月	100.1	100.8	101.3	100.7	101.4
愛 知 県	18年 3月	97.5	99.8	94.3	103.1	102.2
	4月	98.0	105.1	90.1	102.8	105.2
	5月	98.4	111.4	104.1	104.0	104.0
	6月	98.4	112.1	103.9	103.5	99.8
	7月	100.2	98.9	105.5	101.0	103.2

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均		99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年	3月	104.0	91.9	114.9	94.6	106.4
	4月	106.2	92.0	122.0	104.1	107.2
	5月	100.7	92.4	109.8	92.6	108.0
	6月	101.0	92.8	113.7	106.5	109.6
	7月	93.7	87.7	103.4	94.5	110.3

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県企画振興部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち	キ	は	ね	レ	ば	だ	に	た	き	ト	生	り
	米 (単一品種、 「コシカ 」以外)	ャ ベ ツ	く さ い	ね ぎ	タ ス	れ い し よ	い こ ん	ん じ ん	ま ね ぎ	ゅう り	マ ト	しい た け	ん(ご ぶ じ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年 3月	2,247	144	152	531	406	282	178	308	227	600	631	175	502
4月	2,247	186	197	538	359	290	195	379	220	486	683	187	511
5月	2,255	218	230	616	410	296	165	461	235	425	625	195	539
6月	2,264	196	246	619	337	276	163	387	202	466	562	174	573
7月	2,255	151	181	563	280	291	160	374	203	437	523	193	562
品目 単位 年月	み	グ	オ	い	バ	キ	緑(せ 茶ん 茶)	カ	き	バ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐる
	か ん	レフ ル プ ツ	レ ン ジ	ち ご	ナ ナ	ウフ イル ツ		 ネシ ヨ ン	く	ラ			
	1 kg						100g	1 本			1kg		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年 3月	423	387	383	150	232	646	617	156	172	324	235	787	483
4月	-	350	378	123	250	643	617	160	173	321	231	741	493
5月	-	350	361	129	243	634	617	186	158	322	240	767	489
6月	-	379	404	-	244	767	617	171	168	312	226	781	491
7月	-	316	406	-	243	699	599	166	157	295	234	827	498

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか	:	± 2 % 台以内
やや	:	± 3 ~ 5 % 台
かなり	:	± 6 ~ 15 % 台
大幅	:	± 16 % 以上



あいち農産物生産流通レポート 400
平成18年10月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417